

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No. 15

平成28年10月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



診療科紹介

循環器内科

登録医紹介

増山胃腸科クリニック

特集 チーム医療

緩和ケアチーム

特集 チーム医療

NSTチーム

第2回バースセンター同窓会

マイタウン・マイホスピタル
ミニニュース

お知らせ

男体山の登拝祭にて



スタッフと連携し高度な 医療提供と地域医療の為に!



景山 倫也部長

循環器内科について

本年4月より那須赤十字病院循環器内科へ赴任いたしました景山倫也と申します。以前より当院循環器内科に在籍している大口真寿医師と赤羽正史医師に、私を含め小泉 諭医師、廣瀬 優医師の3人が新しく加わりました。

循環器内科とは

循環器内科とは心臓疾患(虚血性心疾患、心不全、不整脈など)、肺循環疾患(肺血栓塞栓症など)、動脈疾患(大動脈瘤など)を中心に診療にあたっております。いずれの疾患も非常に緊急性が高く、放っておくと命に関わるものばかりです。これらの病気を患ってしまった患者さんに一刻も早く治療を行うためには24時間×365日間診療にあたる必要があります。特に急性心筋梗塞に代表される虚血性心疾患は、発症してからカテーテル手術を行うまでの時間で、その後の生命予後が大きく変わることが明らかになっております。

1分でも1秒でも早く連携をとりあい

当院では1分でも1秒でも早くカテーテル手術を行うことが出来るよう、循環器内科医、看護師、臨床検査技師、放射線技師が連携をとりあい、24時間カテーテル手術を行うことのできるシステムを構築しました。もちろん、虚血性心疾患にとどまらず、それ以外の心不全や不整脈疾患などに対しても同様に対応しております。また、現在は獨協医科大学病院との強い連携を持っており、緊急での外科手術が必要な際には、専属医師の付き添いのもとドクターヘリにより15分程度で搬送することも可能になっております。また、獨協医科大学は大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁留置術を行うことの出来る県内唯一の施設であり、その術者である八木 博医師、那須野尚久医師も毎週当院へ来院されておりますので、大動脈弁狭窄症でお困りの方のお力になることもできます。

循環器内科部長 景山 倫也

高度な医療の提供

当院は緊急、慢性疾患に関わらず、高度な医療を提供出来る施設と自負しております。安心してご来院、ご紹介いただくと幸いです。誠にありがとうございます。栃木県北のみなさん、そして地域医療を行う全ての方のお力に少しでもなれるように、スタッフ一同全力で邁進して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

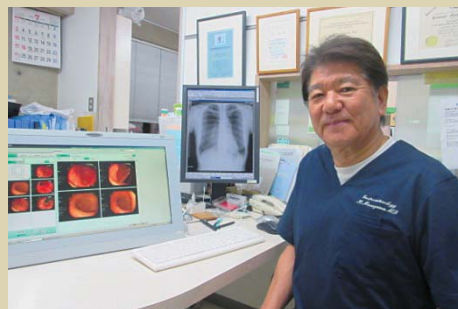


カテーテルスタッフ

増山胃腸科クリニック

診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている登録医の先生を紹介していきます。
今回は「増山胃腸科クリニック」を紹介します。

対象疾患：内科 消化器科 胃腸科
得意分野：消化管疾患の内視鏡的診断・治療



増山 仁徳院長

先生にインタビュー

当院との連携について期待されていふことはどのようなことですか？

入院を必要としている患者さんをお願いしているのは勿論ですが、当院ではできない検査、特に放射線科のCT、MRI等を使った検査は大変役に立っています。心より感謝申し上げます。特にCT、MRIは直ちに回答を返してくれるので、患者さんにも直ぐに還元できるので大変有り難く思っていますと同時に水沼先生はじめ放射線科の先生方のご努力には頭が下がります。当院は消化器に特化したクリニックですので、特に内視鏡検査をして胃がん、大腸がんを見つけ、治療をお願いすることが多いので、特に外科の先生方、消化器内科の先生方には大変お世話になっています。時間内の紹介は病診連携室の方々のご努力で、極めてスムーズに紹介ができていると思っております。快く引き受けてくれる救急の先生方にはお礼の言葉もありません。感謝しております。時間外の紹介は、時々躊躇することもあります。病診連携を円滑に運営する為の懇親の場を毎年行っていたいので、個々の先生方の顔が見えるようになり、紹介時の安心感にも繋がっています。

毎日お忙しいと思いますが、休日はどのように過ごしていますか？

休日の過ごし方は特にはないですが、いつもは学会発表や講演会のためのス

ライド作成、依頼原稿の作成、また患者さんの診断書等の書類を書いているうちに終わってしまいます。時々、誘われてゴルフをしていますが晴れた日のゴルフはいいですね。

地域の方々、患者さんへ一言お願いします。

2013年1月から現在までの約3年半の早期胃がん、進行胃がんについて、当院で見つけた症例を検討してみました。何故かと言いますと、国の施策により今まで40歳以上であった胃がん検診が、今年から50歳以上に引き上がってしまうので、本当にこれで良いのかという思いがあったからです。その結果、早期胃がんはこの3年半で54例あり、**全員が生存しています**。そのうち50歳以下の人は3例、5.6%のみでした。ところが進行胃がんで見つかった人は、3年半で18例、その内約7割の人が**1〜2年で亡くなっています**。進行がんの50歳未満で発見した人は3例、16.7%でした。年齢は38歳、40歳、43歳で、お一人は生存されていますが、2人は亡くなっています。進行がんの方々は、がんが見つかるまでに胃の検診を受けてなく、進みの速い未分化がん（スキルスがん）の人が多く、見つかった時は手遅れという方が多いためです。40歳代は働き盛り、一家の大黒柱であり、病気になるとう家族が路頭に迷ってしまふ。子供さんもそんなに大きくないし、一家を路頭に迷わせないためにも40歳ま

基本情報

- 院長
増山 仁徳
- 住所
大田市原市加治屋83-413
- 電話
0287-23-6321
- 診療科目
内科、消化器科、胃腸科
- 休診日
木曜、土曜午後、日曜、祝祭日

では1回、検診に頼らず、自分自身で自分の為、家族の為に検査をしていただいた方が良いと思います。出来るのであれば内視鏡検査をお勧めしますが、レントゲン検査でも良いので、とにかく検査を受けることが大切です。胃がん検診年齢が引き上がり益々手遅れで見つかる患者さんが増えるのではないかと私は危惧しています。



チーム医療とは従来、医師が中心となった医療を、職種の異なる医療従事者が、お互いの専門性を発揮し、スムーズに連携していく、患者中心の医療です。医療従事者は、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・社会福祉士・管理栄養士・検査技師・放射線技師・事務など多職種で構成され、対等の立場でお互いの意見を尊重し、個々の患者さんの状態に合わせた質の高い医療を提供します。当院のチーム医療は全部で9チームになります。第一回の今回は「緩和ケアチーム」「NSTチーム」を紹介します。

緩和ケアチーム

私たち緩和ケアチームは、主に入院中の患者さんからの依頼を受けて、週に1回治療の検討をしたり、ベッドサイドへ訪れたりし苦痛の緩和を目的に活動しています。

緩和ケアとは、主にがんの患者さんに対し体の苦痛や心の苦痛をやわらげ、患者さんのご家族にとって自分らしい生活を送れるようにするケアのことです。

体の苦痛とはがん自体による痛みや抗がん剤などの副作用による痛み、吐き気や倦怠感などのさまざまな症状のことを指します。心の痛みとは、気分の落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛、治療への迷い、自分の「人生」に対する迷いなどにより自分の考えがまとまらないといった症状を指します。主治医と患者さんと一緒に考え、苦痛が少しでも良くなるようにしていきます。またご家族のケアも行います。

緩和ケアチームでは緩和ケアの医師、看護師（がん専門看護師・緩和ケア認定看護師）、病棟看護師、薬剤師、リハビリの担当、栄養士が参加して情報を出し合い、どうすれば患者さんが楽になるのかを考えています。医師と看護師と薬剤師で病棟やベッドサイドに伺います。

国の対策により「がんと診断されたときから緩和ケアを！！」と言われていています。がんによる苦痛がある方はどなたでも依頼することができますので、そばにいる医療者へお声をかけてください。また近年は高齢者のがん治療、若年者（特に子育て世代）のがん治療と多岐にわたり本人とご家族への支援が必要な時代になってきています。当院にはがん相談窓口もありますので、どうぞ遠慮せずに相談を申し出てください。一人より二人、二人より三人、そしてチームであなただけの生活を支えています。



緩和ケアチームスタッフ



病棟でのミーティングの様子

NST チーム

〈NST とは・・・〉

Nutrition Support Team [栄養サポートチーム] のことです。

近年、栄養管理の重要性が取り上げられておりますが、栄養管理といっても、様々な要因が関わり合っており、多方面からのアプローチが必要ということで、多職種のスタッフがチーム一丸となって取り組むべきとされ、NST が生まれました。

当院では、2007年2月に結成され、入院中の低栄養の方や栄養管理に問題を抱えている方を対象に、チームとして介入しております。

〈構成人員〉

委員長の第4外科部長 青木医師を中心に、医師8名(口腔外科1名含む)、看護師17名、薬剤師2名、臨床検査技師3名、管理栄養士3名、リハビリ5名、歯科衛生士1名、臨床工学技士1名、医事課1名、栄養課長代理1名の総勢42名から成り立っております。

〈活動内容〉

全病棟の患者さんを、毎週火曜日と木曜日に分けて、各曜日午後に約1時間～1時間半ほど、8～10名のメンバー(各職種が必ず参加)でカンファレンスと回診を行っております。事前に、血液検査と食事摂取状況、栄養管理の状態などでスクリーニングをかけ、問題がある患者さん(低栄養の方、食事が進まない方、嚥下機能が落ちて食事摂取が困難な方、褥瘡が治りにくい方など)を抽出し、活動日にカンファレンスで検討し、回診で診察後、栄養管理方法を決定します。NSTで推奨された栄養管理方法は、必ず主治医に伝達され、主治医の方針に即した形で反映されます。昨年度のデータでは、NSTが介入し、主治医の方針に反映された場合、70%以上の方の栄養状態が改善しました。NSTとしては、入院された患者さんが、安心して病気の治療に専念できるよう、これからも栄養管理の面でサポートしていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



NSTスタッフ



NSTスタッフ



ミーティングの様子



病棟カンファレンス

第2回バースセンター同窓会

バースセンター同窓会

4階バースセンター助産師

橋 口 律 子



当院のバースセンターは、平成24年7月の新病院移転時に発足しました。医師は出産には立ち会わず、妊婦さんやご家族と共に助産師主導で自然な流れの中で出産を行えます。今年7月までに約二百名の赤ちゃんが誕生しました。

昨年には当院初のバースセンター同窓会を開催し、参加者からは大変ご好評をいただきました。引き続き今年も、第2回目となるバースセンター同窓会を開催しましたので、ご紹介致します。

総勢約106名の参加

去る7月2日(土曜日)、マイタウンホールにおいて第2回バースセンター同窓会を開催しました。当日は、昨年度バースセンターで生まれた赤ちゃんとその家族、総勢106名が集まりました。

演奏会やバルーンアート そして産後ヨガ

会場は、粒来静香さんによるバルーンアートによるすてきなお花やハート等により飾られ、子どもたちにはアンパンマンの腕輪がプレゼントされました。

そして、地域で活躍されるファミリーブラスバンド・マムソウルの皆さんによる楽しい演奏会が開催されました。ドキンちゃん、アンパンマンも登場し、子どもたちが大好きなアンパンマン、サザエさんなどの演奏を聞いたり、手遊びを楽しみました。「初めてオーケストラ(音楽)を聞かせてあげることができ、すごく良い体験ができた」「すてきだった」などの感想が聞かれました。

その後は、生形博美先生による、産後ヨガで気持ちよく体と心をほぐすことができました。

最後は感動のスライドショー

最後は、スライドショー。お産した日のごことがよみがえり、涙を拭う姿もちらほら。「一年前のことが、とても懐かしく、今、お陰様で家族四人とも元気に過ごせています。毎日抱っこにおんぶ、お世話が大変ですが、頑張る力になりました」「また産みたくなりました」「マタニティークラスや産後クラスで知り合った方と再会できて良かった。」という声も聞かれ、皆さん赤ちゃんを抱いて、お話も盛り上がっていました。

私たちスタッフも、久しぶりにお元氣そうなママさんたち、成長した赤

ちゃんのお顔をみることができ、感慨深いひとときでした。



7月 ウォッシュクロスの寄贈

大田原女子高福祉委員会/7月19日(火)

大田原女子高より全校で集めた※①ウォッシュクロス 3716枚の寄贈がありました。同校に衛生看護科があったことから始まり、活動の中心は福祉委員会で同校のマーク入りのダンボールにクロスを詰め高橋看護部長に手渡しいただきました。たくさんの患者さんに使わせていただきます。



高橋看護部長にウォッシュクロスが手渡される

8月 緩和ケア病棟 夏祭り

夏祭りの雰囲気を楽しめる/8月5日(金)

緩和ケア病棟では、毎年恒例の夏祭りが行われました。談話室でのオペラやフラダンスの催し物の他、屋台に見立てた風船つり、射的、かき氷、栄養課によるおやつが振る舞われました。また今年度は病棟スタッフが少しでもお祭りを思い出していただければと、小さな御神輿も作成しました。患者さんはもちろん、ご家族の方にも喜んでいただけました。



射的に挑戦する患者さん

与一まつりに参加

113人が流し踊りに参加/8月5日(金)

地元大田原市で開催される与一まつりの流し踊りに、医師、看護師をはじめ、総勢113人が参加しました。

練習の甲斐あって、見事特別賞をいただきました。



与一まつり参加、一生懸命踊りました。

社会貢献活動で地元中学生7名が参加

大田原市立金田北中/8月5日(金)

生徒の社会性を育成する(生徒が地域の一員であるという意識を高める)ことを目的に中学生のボランティア7名を受入れ実施されました。院内の見学と日本赤十字社の説明、※②病院ボランティア会の説明もありました。

午後はウォッシュクロス作成(タオル裁断)もありとても真剣な表情で作業を行いました。



ウォッシュクロス作成(タオル裁断)

第54回 日本赤十字社 東部ブロック体育大会

ソフトテニス部初優勝/8月28日(日)

日本赤十字社 東部ブロック体育大会が芳賀赤十字病院が当番で開催されました。関東近辺にある赤十字病院18施設が参加し、当院でもバレー部・硬式テニス・ソフトテニス部・卓球部が出場しソフトテニスが見事初優勝いたしました。選手・スタッフのみなさん暑い中本当にお疲れさまでした。



初優勝!ソフトテニス部表彰式

※①ウォッシュクロス 患者さんのケアなどに使用されるタオル

※②病院ボランティア会 平成28年8月現在、那須赤十字病院の登録者は43名

献血にいこう！ 「血液を確実にお届けするために」 ～あなたの善意が患者さんの尊い命を救います～

日 時：平成28年12月28日(水)
場 所：那須赤十字病院 時間外入口(献血バス)
問合せ：那須赤十字病院 社会課
☎0287-23-1122(代)

400 ml 献血のご協力をお願いします。

がんのつどい

平成28年10月1日(土) 10:00～11:00
那須赤十字病院会議室 1.2
【フリートーク】
アドバイザー：がんのつどいスタッフ

平成28年11月5日(土) 10:00～11:00
那須赤十字病院会議室 1.2
【お薬のこと】
アドバイザー：薬品管理課長 内藤 裕之

平成28年12月3日(土) 10:00～11:00
那須赤十字病院会議室 1.2
【お金のこと】
アドバイザー：社会福祉係長 野中 美希

マイタウンまつり2016

【来て見て知って得するマイタウン・マイホスピタル】

那須赤十字病院は基本理念「マイタウン・マイホスピタル～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～」を基本理念に、日々活動しております。

今年度も昨年に引き続き、第2回目となる病院祭を開催します。

地域の方々にこれまで以上に当院や医療について親しみをもっていただきたいと思っております。

当日は、日本赤十字社の公式マスコットキャラクター「ハートラちゃん」も参加します。

誰でも参加できますので、ぜひ、家族や友人を誘って遊びにきてください。

▲と き 平成28年10月16日(日) 午前10から午後3時

▲と ころ 那須赤十字病院

▲内 容

- ・医療機器体験、調剤体験、脳と体と骨密度、検査血管年齢測定、栄養相談、がんと生活、かかりつけ医推進案内。
- ・救急法、幼児安全法、健康生活支援
- ・ドクターカー、救急車の展示、エアートント展示
- ・演奏会(大田原女子高合唱部・那須中学校吹奏楽部)
- ・ちびっこ写真撮影(救護服・ナース服)
- ・模擬店、炊き出し

▲問合せ

・那須赤十字病院 総務課 23-1122(代表)

編 集 後 記

先日、観測史上初となる台風10号が東北地方に直接上陸となりました。

奇しくも9月1日は関東大震災にちなんで1960年(昭和35年)制定された『防災の日』でしたが、近年このような自然災害が多くなっているように感じます。

様々な専門家が自然災害についての情報を発信していますが、いつ来るかわからない自然災害にどのように対処したら良いのか、過去の災害を基にいま一度家族と話し合ってみてはいかがでしょうか。

地域医療福祉連携課 土屋 美恵

プレゼント



本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください!

抽選で3名様に「CroKuma 救護服」「CroKuma ナース」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵送/ 〒324-8686 大田原市中田原1081-4

那須赤十字病院 総務課 プラタなす第15号 プレゼント係
FAX/ 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第15号 プレゼント係」

メール/nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第15号 プレゼント係」

●応募締切り 2016年11月30日(水)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

今回の表紙

7月31日深夜から8月1日まで、日光市にある男体山の登拝祭が行われ、当院も救護活動を実施しました。当院の薬剤師・看護師の他、日本赤十字社栃木県支部・整骨災害救護奉仕団の方も参加し、無事に終了しました。

左から整骨災害救護奉仕団員、五味渕看護師、倉井薬剤師、栃木県支部佐藤係長、浅利看護師、栃木県支部原主事



那須赤十字病院

基本理念

マイタウン・マイホスピタル
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さまの立場を尊重し、患者さまに信頼される病院をつくりたい。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.15

発行日 2016年10月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷